

2022 年 7 月 15 日
健康長寿産業連合会

報道各位

地域生活の Well-being 指標の開発と活用検討

健康長寿産業連合会（会長：澤田 純）は、この度、慶應義塾大学大学院・前野隆司研究室と共同研究し、『地域生活の Well-being 指標』を開発しました。

本指標は、政府が進める「デジタル田園都市国家構想」における検証指標として採用が決まっており、今後各自治体等において活用されることが期待されます。

■経緯・背景

健康長寿産業連合会 健康都市モデルワーキンググループ（WG1）では、様々な関係者が課題や価値観を共有しながらエリアの魅力づくりに取り組む「エリアマネジメント」の手法を用いた健康づくり、すなわち「健康エリアマネジメント」を検討しています。

住民やエリア利用者が幸福を感じる要因を明らかにするとともに、エリアの幸福度を測る指標化を行い、健康づくりの PDCA サイクルを回すことを目的として、幸福学の研究を進める慶應義塾大学大学院・前野隆司研究室と共同研究することになりました。

■地域生活の Well-being 指標の開発

地域における幸福感に影響する普遍的な因子を推定するため、予備調査（N=600）ののち、本調査（1 回目：N=3,000、2 回目：N=1,621）を実施し、測定尺度の開発および開発尺度の妥当性と信頼性を検討しました。

調査結果として得られた 10 個の因子と、幸福感と関係が高いとされた各因子上位 3 つの設問は以下のとおりです。



因子	因子名称(案)	概念定義(案)	設問
F1	ダイナミズムと誇り	地域の文化・芸術などが盛んで誇らしく、日々の変化に新しい刺激が得られている。また、地域に賑わいや躍動感があり、新たな出会いや挑戦・成長する機会がある。	暮らしている地域は、文化・芸術・芸術が盛んで誇らしい 暮らしている地域では、新たな発見や刺激が得られる 暮らしている地域には、新たな事に挑戦・成長するための機会がある
F2	生活の利便性	日々の生活基盤（商業・医療・教育・交通機関・公共施設など）が整っており、身近で利用やすく、不便を感じていない状態。	暮らしている地域は、日常の買い物にまったく不便がない 暮らしている地域は、医療機関が充実している 暮らしている地域の公共施設は使い勝手がよく便利である
F3	生活ルールの秩序	地域の生活ルール（ゴミ出しマナーや道路交通マナーなど）が守られず、騒音などの公害に悩まされてイライラすることが多い状態。	暮らしている地域は、路上にゴミを捨てる人が多い 暮らしている地域は、ゴミ出しや生活ルールを守らない人が多い 自宅の近辺は、騒音に悩まされている
F4	自然の体感	地域では自然（海・山・里山・川・湖等）が身近に感じられ、四季折々に向き合う事を喜びに感じられる。また、空気や水などが清浄だと感じられている状態。	暮らしている地域では、身近に自然を感じることができる 暮らしている地域には、自然と向き合う喜びがある 暮らしている地域の空気や水は澄んでいてきれいだと感じる
F5	居住空間の快適さ	自身の暮らす住居について、快適で過ごしやすく満足できている状態。	自宅の間取りは、使い勝手がよく快適である 自宅の外観（庭等を含む）には満足している 自宅には、心地のいい居場所がある
F6	つながりと感謝	近隣住民に感謝し、良好な関係が維持できている。また、地域に気の合う仲間や助け合える知人がいる状態。	暮らしている地域には、気の合う仲間や知り合いがいる 暮らしている地域には、困ったときに相談できる人が身近にいる 私は、近所の方に感謝することが多い
F7	健康状態	自身は精神的にも身体的にも健康である。また、日々の生活が安定しており、不安があまり感じることなく、笑顔で過ごしている状態。	私は、精神的に健康な状態である 私は、身体的に健康な状態である 私は、日々の生活において、笑うことが多い
F8	過干渉と不寛容	地域は、よそ者に不寛容で、少しでも変わった事をすると角が立つ。近隣住民と（自身にとって）程よい距離が保てず、干渉が頻れく窮屈さを感じている状態。	暮らしている地域では、住民同士が過干渉でしらがみが多い 暮らしている地域では、少しでも変わった事をすると周りからとやかく言われる 暮らしている地域の住民は、地域外から来た人には悪い目を見る
F9	地域との相性	地域の街並みや風景に愛着を感じ、流れる時間（ゆったり感じる/スピード感がある）や雰囲気自分がにとって心地よく感じられている状態。	自宅近辺の街並みは、私の好み合っている 暮らしている地域の雰囲気は、自分にとって心地よい 暮らしている地域の時間の流れ方は、自分にあっている気がする
F10	地域行政への信頼	地域政治のリーダーや行政施策へ賛同し、納得している。また、地域政治のリーダーや行政の振る舞いに対して好感を抱き、信頼できている状態。	暮らしている地域の政策には、賛同できる 暮らしている地域行政は、地域のことを真摯に考えていると思う 暮らしている地域の自治体窓口（役場など）は、親切で好感が持てる

【評価尺度】0. 全くあてはまらない 1. あまりあてはまらない 2. どちらとも言えない 3. ある程度あてはまる 4. 非常にあてはまる

■地域生活の Well-being 指標の活用検討

地域生活の Well-being 指標は、地域での暮らしの中で感じる主観的幸福感に影響する普遍的な因子を網羅的に抽出したものです。この指標の活用には、具体的な活用フローを整理していくこと（具体エリアの状況・課題を踏まえ、指標のカスタマイズ・地域毎のニーズを踏まえたアンケート設計、等）が必要となります。

今後、健康長寿産業連合会では、地域生活の Well-being 指標をベースに、特定のエリアにおける活用方法の検討、サービス設計、政策との連携／提言等を図ってまいります。

■開発者コメント（慶應義塾大学大学院 前野隆司教授）

慶應義塾大学前野隆司研究室では、これまで様々な幸せの指標化を行ってきました。このたびは、地域生活の Well-being 指標の実現が不可欠との考えから、健康長寿連合会他の御支援を受け、地域生活の Well-being 指標を開発しました。ちょうど政府のデジタル田園都市国家構想の流れにも乗り、本構想の検証指標としても採用され、今後、日本中で使われていくものと思います。

前野隆司 慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科教授

1984 年東京工業大学卒業、1986 年同大学修士課程修了。キャノン株式会社、カリフォルニア大学バークレー校訪問研究員、ハーバード大学訪問教授等を経て現在慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科教授。慶應義塾大学ウェルビーイングリサーチセンター長兼務。博士（工学）。著書に、『ウェルビーイング』（2022 年）、『幸せな職場の経営学』（2019 年）、『幸福学×経営学』（2018 年）、『幸せのメカニズム』（2013 年）、『脳はなぜ「心」を作ったのか』（2004 年）など多数。日本機械学会賞（論文）（1999 年）、日本ロボット学会論文賞（2003 年）、日本バーチャルリアリティ学会論文賞（2007 年）などを受賞。専門は、システムデザイン・マネジメント学、幸福学、イノベーション教育など。



<問い合わせ先>

健康長寿産業連合会 健康都市モデルワーキンググループ（WG1）事務局

担当：加納

Email: hokuto_kano@mec.co.jp HP : <https://www.well-being100.jp/>